



▶ 令和6年12月 一般質問

▶ 令和7年2月 予算特別委員会

いさやま大介



プロフィール

教員の両親から生まれる。
神戸大学発達科学部を卒業。
中学から大学までは水泳部のキャプテン。(現在、神戸市水泳協会副会長)
灘区の松蔭中学と神戸海星高等学校で18年間教員を勤める(理科と化学)。
地元少年野球部の元コーチ、地域こども水泳教室の現コーチ。

2015年、19年、23年神戸市会選挙連続当選、現在3期目。
教育こども委員会所属(2025年3月現在)
議会活動のかたわら、駅頭活動と週末の地域周りを現在も欠かさず継続中
教員経験を活かし教員の多忙化対策等、教育全般の環境改善に全力活動中。



市政を身近に

発行元

こうべ未来市会議員団

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 1号館27階
TEL: 078-322-5844 FAX: 078-322-6161

Vol.38

令和7年度各会計予算について

令和7年度各会計予算及び関連議案合計47件を、要望14件を付して認定、承認しました。
(要望事項の一例)・医療的ケア児を在宅で介護している家族の負担を和らげるため、医療型短期入所の受け入れ体制の強化に努められたい。
・老朽化に伴う下水道管を含む道路付帯設備の調査を継続しながら、適切な維持管理に向けて取り組まれたい。

『エコノバ(資源回収ステーション)』の取り組みが広がっています！

- 『エコノバ』とはプラスチックの「まわり続けるリサイクル」を実践し、「世代を超えて新たな交流が生まれる拠点」を目指しています。
- 灘区では、せいとく、つるかぶと、にしごう、ひえだ、なぎさ、にしなだ、たかは、おうじ、とが、の9か所の地域福祉(地域交流)センター等で開設されています。(2025年3月現在)
- 使い捨てカイロのリサイクル実証実験も始まっています。ぜひご利用ください。



ダブルケア(育児と介護の両立)への支援は?!

一般質問

一般質問のポイント

- 2016年の内閣府の調査によると、育児と介護を同時に担うダブルケアを行っている人は全国で約25万人と推定される。
- 育児と介護のケアを同時に担う市民に対する支援についてどうなっているか。
- 他都市の例にならない、相談体制を含めた総合的な支援を進めるべきでは。

副市長：相談窓口として、介護は、「あんしんすこやかセンター」が中心となり、育児は、各区のこども家庭支援室、さらには地域の身近な相談場所としての児童館、おやこふらっとひろば、保育所などがある。

そちらで、介護者、保護者、家族の状況も把握するように努めてきている。その家庭の福祉課題が複雑で困難な状況になっている場合は、関係機関が情報共有し、チームとして家族全体の状況も踏まえた支援方針の検討・策定を行うなど、介護・育児の両面から、世帯全体にとって適切なサービスが提供されるように連携対応している。



いさやま：堺市では全区役所に育児と介護の両方を行う人へのダブルケア相談窓口を設置している。京都府では地域包括支援センターと子育て世代包括支援センターの連携により、育児と介護問題に関して適切なサービスを紹介できる体制を構築するとともに、子育てに配慮したケアプラン作成を行っている。神戸市でもより総合的な支援を進めるべきである。

★ 毎月末 市政報告会を開催しています。
電話・メール等でご予約いただき、ぜひご参加ください。

討議資料

いさやま大介事務所 〒657-0816 神戸市灘区国玉通2-2-8 まどかビル2階東
TEL: 070-1930-2368 FAX: 078-271-3707 mail: info@isayama-daisuke.jp

神戸の課題にフォーカスを！！

一般質問／予算特別委員会

○「神戸市独自のグリーンインフラ戦略」とは！！

- ☑ 「グリーンインフラ」とは、自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用する考え方である。
- ☑ 都市部と郊外が近接し、六甲山系が近い地理的要件を有した本市において、グリーンインフラについての計画や戦略はどうか。
- ☑ 神戸の森林の再生を強力に進めるために、広葉樹林の整備・活用などについて、国や県に協力を得られるよう働きかけるべきではないか。

一般質問
のポイント

久元市長：国交省のグリーンインフラ戦略とは、気候変動や生物多様性などへの対策として、自然環境が持つ機能を社会の様々な課題解決に活用するという観点であり、この観点で神戸市の施策を進めていきたい。都心だけでなく、既成の市街地や郊外を含めた市街地における緑を増やし、長年放置されてきた民有林を含む神戸の森林の再生を図る。グリーンインフラという視点も十分に踏まえて政策の具体化を図っていく。



副市長：神戸市の森林の9割程度が広葉樹林であると推測されており、東京にある大手町の森かつてのような資源利用が停止し、荒廃しつつあることが大きな課題である。現在木材活用を含む広葉樹林の活用、管理再開に積極的に取り組んでいる。国や県に対して様々な形で協力を得られるように働きかけていく。

○震災30年関連事業（文化スポーツ局）を進めていきます！！

震災30年関連事業は、国内外からの多くの支援に対する感謝の気持ちをあらためて示し、また、経験や教訓などを後世やほかの被災地に伝えていくという使命を帯びています。文化スポーツ局の各事業が、5年後や10年後を見据えた未来へ継続していくものとなっているのか。また、

「松蔭中学・高等学校美術部」が、40周年イベントとしてワールド記念ホールを巨大なチョコレートとして演出するイベント（右上写真）が行われましたが、若者に事業に参加してもらおう仕組みを採り入れていくべきだと、質疑しました。



教育・子育ての充実を！！

予算特別委員会

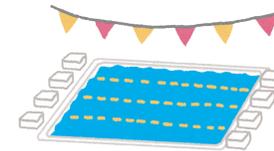
○部活動の「KOBE◆KATSU」への移行はどうか？！

現在教員が担っている部活動を、平日、休日とも全面的に地域へ移行する「コベカツ」は、2026年9月より開始される予定です。担う団体が集まるのか、種目により地域偏在はないのか、指導員の資質はどうか、月謝など金銭面はどうかなど様々な課題があり、この議会でも多くの議論がありました。私いさやま大介は、主に教員が担ってきた中学校の大会の組織運営について取り上げました。今年度は、文化スポーツ局の方で大会運営組織のあり方を検討していくとあり、教育委員会と文化スポーツ局との連携の在り方等、質疑しました。



○民間プール活用の可能性を！！

令和7年度予算では、民間プールを活用した水泳授業を実施する学校を、自校にプールがない小学校3校（六甲山、美野丘など）から、原田中学校の1校増やし4校になります。民間プールの活用の考え方と今後活用を広げてはどうか、質疑しました。



○チーム担任制の効果は？！

学級担任を固定せず、複数の教員で分担する「チーム担任制」について、令和5年度に4校、令和6年度に9校でモデル実施を行ってきていますが、令和7年度は50校で実施する予定です。この制度の、メリット、デメリットと実際にモデル実施をした教員の意見はどうだったのか、また現場の教員としっかりとコミュニケーションをとれているのか、質疑しました。



○継続的な不登校支援を！！

教育委員会では、令和5年7月に策定した「不登校支援の充実に向けた基本方針」において、フリースクール等の民間施設との連携を推進していくとしていますが、具体的にどのような連携を行っているのか、また、兵庫県が令和7年度予算で、フリースクール等民間施設に通う児童生徒の家庭に対して、県・市協調で月1万円を補助する制度を設けようとしていますが、神戸市だけ対象外としていることについてどう対応するのか、質疑しました。

○まちなか自習室って何？！

カフェなど民間施設の空き時間を、中高生向けの無料の学習スペースとして活用していく「まちなか自習室」事業の狙いとスキームはどういうものか、質疑しました。

